どんぐりの森通信　第17号　2009. 7. 1.

「平岡どんぐりの森」は、身近な地域の自然に親しむ活動をしているグループです。平岡公園や東部緑地をフィールドに、子供たちと一緒に自然の中で遊ぶ「ながぐつの土曜日」や、定期的な自然観察会を行っています。
「ドングリの森通信」は年2回の発行で、活動の様子や地域の自然の中で見たこと、感じたことをお伝えしています。

梅雨のないはずの北海道ですが、6月に入ってから週末ごとに雨が降るパターンにはまってしまった札幌です。1年中でいちばん美しい季節なのに残念という方も多いでしょうが、平岡の空には雨にもめげず行きかうアオサギの姿がめだちます。子育て中のアオサギ達には、降っても照っても休日はないのですね。

09年前半期の活動報告は、子育て奮闘中のアオサギ観察会レポートから。

❖❖❖　1月～6月の活動報告　❖❖❖

アオサギ観察会

毎年春から夏にかけて、平岡イオンショッピングセンターの森にたくさんのアオサギが集まって営巣し、子育てをしています。近くの平岡高校の屋上をお借りしてのアオサギ観察会、今年は5月と6月の2回おこないました。

5月8日（金）第1回アオサギ観察会

毎年、春の訪れと共に平岡の空をにぎわすアオサギ達です。今年のアオサギ初飛来情報は3月8日朝、17羽が確認されました。営巣地のカラマツ林は住宅地にありますが、外部の人が出入りできない緑地の中なので人目につきにくく、アオサギ達も安心して子育てができるようです。

北海道アオサギ研究会代表の松長克利さんのお話を聞きながら、高校屋上からコロニー（集団営巣地）を観察。芽吹き始めたばかりのカラマツの薄緑に包まれた大きな巣が、目視で56個確認できました。裏側にはもっと多数の巣（数年前の調査では150以上）があるはずです。どの巣にも、うずくまって抱卵している親鳥の姿が見られます。すでに卵から孵ったヒナが頭をもたげている巣もいくつかありました。アオサギの抱卵期間は約25日だそうですが、卵を産む時期に時間差があるので、孵化の時期は長くて1カ月近くの差がつくということです。

風もなく穏やかな晴れた日で、餌場へと往来するアオサギのゆうゆうと飛ぶ姿がよく見えました。

6月17日(水)第2回アオサギ観察会

前回の観察会から1カ月たって、ヒナはずいぶん大きくなりました。望遠鏡でのぞくと、親鳥とほとんど変わりない大きさに成長した幼鳥が、どの巣にも2～3羽います。大きな巣とはいえ、体の大きな幼鳥が3羽もいると窮屈そうに身を寄せ合っています。近くの枝に飛び移ったり、上空を一周してみたりと、飛ぶ練習をしている幼鳥もいました。

写真提供　松長克利さん

一方、まだ卵を抱いている親鳥の姿も見られます。くちばしで卵の上下をひっくり返して(転卵)、均一に温めようとしています。この時期にまだ孵化していないとすると、今シーズンの終わりに渡りができるまでに成長するのは難しいかもしれない、とのこと。今、大きくなっている幼鳥でも、これから巣立ちして1人前になるまでには様々な困難が待ち受けていて、翌春まで生き延びられる率は半分以下という統計もあるそうです。自然界はなかなか厳しいですね。

平岡の地を選んで次の世代への命をつないで行こうとしているアオサギ達を、これからも応援していきます！

鷺の巣のひとつひとつに雛の声　　克利

❖❖❖　1月～6月の活動報告（その2）❖❖❖

ながぐつの土曜日

　毎月第2土曜日に平岡公園で、小学生の親子を中心にした自然観察会を開いています。自然の中で遊びながら次々に新しい発見をしていく子ども達の目に、いつも驚かされます。大人にとっても楽しい観察会です。

4月11日（土）　とび出せ！春の森たんけんたい

　暖かい陽気に誘われたのか、百数十名という多数の参加者が集まって、スタッフ一同嬉しい悲鳴でした。皆さん春を待ちかねていたのですね。芽吹きはじめた緑のなか、3グループに分かれて出発。森に入ってすぐ、カラマツに大きな細長い穴をいくつも発見。去年の冬から目撃情報が寄せられている***クマゲラ*** の食痕です。幹の中心部まで到達する深い穴、周囲にはくちばしで木片を削り取った跡がついています。「すごい力だね」「何時間ぐらいかかったのかな？」と、天然記念物クマゲラの努力に一同感服。図鑑で写真を見ましたが、ホンモノの赤いベレー帽に一度出会ってみたいですね！

　湿地の木道脇には、春の名物***エゾアカガエル*** の産みたての卵がこんもり。バケツに入れて観察しました。ゼリー状の卵を手のひらに載せてみた子供たちは「冷たい！」「重たい！」と、ちょっと興奮気味。無事にオタマジャクシになって、立派なカエルに成長してねと水に戻しました。

5月9日（土）　みどりの森たんけんたい

　ちょうど梅の花盛りで、梅林は花見客で満ぱいです。森の中では、遊歩道わきにツタウルシがあちこちに芽を出していました。赤っぽい三枚葉の特徴をよく覚えて、触らないように厳重注意！今頃が一番かぶれやすいそうです。

　人口湿地では***ミツガシワ*** の花がきれいに咲きそろっています。湿地を作るときに植えたものですが、ずいぶん増えてきました。木道ではオタマジャクシをルーペでじっくり観察。そろそろ手（足？）が出てきそうかな？倒木の下の草むらに逃げ込むヘビを見つけて、追いかける子、遠ざかる子…小さな***ニホントカゲ*** も見つけました。

6月13日（土）トンボと池のたんけんたい

オオナメクジ

　あいにくの雨と低温で、今日はトンボの羽化は見られませんでした。
でも、雨にもめげずレインコート姿の元気な子供たちを、濡れた葉の上でたくさんのカタツムリが迎えてくれました。渦巻き模様の***サッポロマイマイ***、半透明の***オカモノアラガイ***、特大の***オオナメクジ***。木道では羽を濡らしてちょっと元気のない***モイワサナエ*** もいました。

平岡公園ツリーウォッチング

　樹木を中心に、公園内の四季の移り変わりを定点観察する『平岡公園ツリーウォッチング」。毎月第二水曜日午前中の開催です。

5月13日（水）芽吹きの美しさとカエデの花見

　公園入口の階段からは、芽吹きの緑と『春紅葉』の微妙な色付きが一目で見渡せます。***コナラ***と***ミズナラ*** の緑の濃淡、***ベニイタヤ*** の赤い芽吹き、***イタヤカエデ*** の黄色、春の森は様々な色合いを見せてくれます。

　梅の香橋ではカエデの花がちょうど見頃で、***ハウチワカエデ***、***ヤマモミジ***、***イタヤカエデ*** の花を見比べてみました。秋の紅葉だけでなく、花もなかなかの美しさです。***コクワ*** の蕾はまだ固いですが、桜の仲間では開花の遅い***ミヤマザクラ***は、そろそろ薄ピンクの蕾をふくらませていました。縮れたような***イヌエンジュ***の遅い芽吹き、***コナラ*** の雄花の細長い穂も目につきました。

湿地では***ミツガシワ*** の花が満開。***サギスゲ*** の地味な花もたくさん咲いています。来月は一面の白い穂が風になびく風景が見られるでしょう。

人工湿地の植物もだんだんに数も増え、株も大きくなって、湿地らしい景観をつくりだしています。移植した株からタネで広がってきた植物もあります。よく見ると***モウセンゴケ***や***ツルコケモモ*** など湿地でしか見られない植物も生育しています。

梅林見物のついでに湿地をのぞいてみる人も多くなってきました。

ミツガシワ

6月10日（水）白い花の目立つ樹

園内のあちこちで鳥の声が聞こえますが、葉が茂ってきたので姿を見つけることはなかなかできません。おなじみの***センダイムシクイ*** の声、***アオジ*** の複雑なさえずりを聞きながら湿地の木道を歩きます。***キビタキ*** のソプラノの歌声も森の奥から聞こえました。

シナノキ と***オオバボダイジュ*** の違いを葉の大きさや手触りで比べて、図鑑で確認してみます。***ハンノキ（ヤチハンノキ）***と***ケヤマハンノキ*** も、もう1度復習。木道脇の***サワフタギ*** は真白い花の盛りです。去年は花をつけていなかった小さい株も咲いていました。秋には、***ルリミノウシコロシ***という別名にふさわしい青い実がたくさんなることでしょう。あちこちで***ハクウンボク*** の白い花も咲きはじめています。***ホオノキ*** も花盛りで、あたり一面が良い香りに包まれています。咲き終わった***オオカメノキ*** に替って***ミヤマガマズミ*** の白い花が林縁を飾っていました。

冬の平岡公園にぎわいフェスタ　1月17日（土）

平岡公園管理事務所と共催の『にぎわいフェスタ』冬版は、「**スノーシューで冬の森たんけん**」、「**ガマの葉でコースター作り**」、「**スノーキャンドル作成**」と、盛りだくさんのイベントです。天候に恵まれ、家族連れや子どもたちが大勢集まりました。（参加者・スタッフ　計58名）

スノーシューとカンジキで、雪が積もっている時期にしか入れない森の奥を歩いてみるのが、この季節の楽しみです。初めてスノーシューをはく人も、最初はおっかなびっくりですがすぐに慣れて、どんどん斜面を登っていきました。

見通しの良い林の中では鳥の姿がよく見えます。***シジュウカラ***、***ハシブトガラ***、***ヤマガラ*** のカラ御三家、***アカゲラ*** と***コゲラ***、***シメ***、***ウソ*** の声も聞こえました。

青空を見上げると、***オジロワシ！*** が悠々と飛んで行きました。

平岡公園の湿地に生えたガマを、夏の終わりに刈って干したものを材料に、コースター作りにも挑戦です。簡単な編み方ですが、工夫次第で個性的な作品もできました。

スノーキャンドル作りはボランティアの学生さん達の協力もあって、面白い形や模様のあるキャンドルがたくさんできあがりました。暗くなってから灯をともすと、薄闇に浮かびあがったキャンドルは傑作ぞろい。

公園特製の温かいお汁粉をいただき、めいめい手作りのコースターをお土産に、満足して家路につきました。

水そうと川と魚

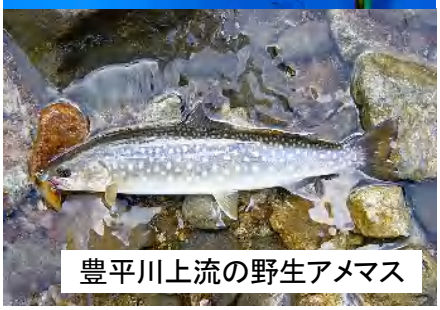
（文と写真） 札幌市豊平川さけ科学館　岡本　康寿

さけ科学館では、結構たくさんの種類の生き物を飼っています。いま展示している種類数は、サケの仲間24、淡水魚25、両生類8、爬虫類4、その他10で、え～と、合計71種類！も見ることができます。平岡公園にすむ魚も、スナヤツメはいないけど、ドジョウトリオとトミヨコンビはさけ科学館に揃っています。

何でこんなにたくさん飼っているのかって？それは、みなさんに札幌の水辺の生き物をじかに（ガラス越しですが…）見てもらいたいからです。水中の生き物を野外で観察するのは、慣れないうちは結構むずかしいものです。その点、さけ科学館ではお手軽に生きた姿を見ることができます。

ただ、あそこの館長は「うちにいるのは実物だけど、本物じゃないんだ！」などと、わけの分からないことを言っています。どういう意味でしょう？館長の言い分をちょっと聞いてみましょう。

さけ科学館の飼育アメマス


豊平川上流の野生アメマス

さけ科学館の飼育魚を見た人は、感想がふたつに分かれるそうです。
まず「キレイ」「カッコイイ」「カワイイ」と言ってくれる人たち。うれしいですねぇ。実はこれは、野外の魚をあまり見たことがない人たちに多い感想とのこと。

「何だか締まりのない体だなぁ」「ヒレとか鼻先が丸いなぁ」「生気がない」「目が死んでる」うぅっ、そこまで言うか…　これは、普段から川で釣りや魚とりをしている人からよく聞かれる言葉です。彼らから見ると、さけ科学館の水そうにいる魚は「何かヘン」なのです。それは、魚が本来生活している場所と水そうとでは、環境が違いすぎるためです。

ヤマメを例に挙げると、さけ科学館の水そうの中は、ヤマメが楽ちんに生きていくにはとてもよい環境です。ちょっときゅうくつですが、水の流れがほとんどないので無理に泳がなくてもよく、天敵に襲われる心配もなく、1年中過ごしやすい水温だし、栄養満点のエサが毎日決まった時間に天から降ってくる。う～ん、ごくらく。

自然の川は、これとは正反対の厳しい場所です。でも、そこで生き抜いているヤマメは精悍な容姿と爛々と輝く瞳が断然カッコイイです。飼育魚も何とか川で見る美形に近づけたい、と日々がんばっていますが、環境がこんなに違うとなかなか難しいです。

さけ科学館の魚は実物だけど本物じゃない。そのことは知っておいてほしいです。

じゃあ、価値がないかと言えば、そんなことはまったくありません。これだけ札幌の川の生き物が揃って見られる所は、さけ科学館のほかにありません。こんなのがいるんだ、という生きた図鑑として大いに活用してください。さけ科学館で得た知識が、実際に川に出掛けた時に役に立ったりすると、館長もとても喜びます。

飼うことには、魚の姿や行動をじっくり観察できるというメリットもあります。野外の環境と違うとはいえ、じっくり付き合うことで、新しい発見があるかもしれません。

それと、野外でも「本物じゃない」魚が時々いるので気を付けてください。いわゆる「放流物」です。みなさんは、本物を見る目をしっかり身につけてほしいなと思います。そう考えると、コンクリートの三面張りの川にいる魚だって、本物じゃない、のかもしれませんね。

平岡の人工湿地は、本物が暮らす場となってほしい、そう切に望みます。　　2008年6月2日撮影

発行　**平岡どんぐりの森**　（代表　荒井美和子）

〒004-0033　札幌市厚別区上野幌３条５丁目１２－８
tel. fax　０１１－８９６－００５８

ホームページ　http://dongurinomori.web.fc2.com/

平岡どんぐりの森の活動は、平成２１年度　**前田一歩園財団自然環境保全活動助成**を受けています。